

令和 7 年 11 月 25 日

始良市議会議長 様

会 派 名 公明党始良市議団
代表者氏名 竹下 日出志

政務活動報告書

【 (調査)・研修・陳情等 】

次のとおり実施しましたので報告します。

活動期間	令和 7 年 11 月 19 日 (水)		
活動場所	宮崎県綾町役場		
目 的	オーガニックビレッジ宣言のまちづくり		
使 途 項 目	旅費	経路内訳 と金額	様式 3、様式 5 のとおり
調査概要 所 見	◎宮崎県綾町 11 月 19 日 (水) 13:00～14:30 〈綾町の概要〉 ・人口: 6,463 人 (R7.11.1) ・宮崎市から北西 24 km に位置します。 ・面積: 95,19 km² 町の 80% が森林 そのうち 80% が国有林 日本最大規模の照葉樹林 ・1982 (S57) 年九州中央山地国定公園に指定 自然生態系農業の町・綾 「自然生態系農業」とは、本来機能すべき土の自然生態系を取り戻し、化学肥料や農薬などの化学合成物質の利用を排除し、健康保持、遺伝毒性を除去する農法です。 綾町は、食の安全と消費者に信頼され愛される農業を確立し長期的発展を図るため、1988 (昭和 63) 年 7 月に「自然生態系農業の推進に関する条例」を制定し、生産者、農協、町が一体となって取り組んでいます。これは、全国に先駆けて有機農業の推進を高らかに宣言するものでした。 また、2001 (平成 13) 年 11 月からは日本農林規格に基づく「有機 JAS 登録認証機関」として、有機農産物を生産する農業者などの認証業務も行っています。 有機農産物等の販路は産直連携を中心に行われています。合わせて、地元で生産された農産物は地元で消費しようという地域内循環の考え方で、学校給食や公共施設で町内産農産物の多くを供給できる地産地消体制を整えています。		

2023（令和5）年にはオーガニック給食の推進に関する条例を制定、またオーガニックビレッジ宣言のもと、新規就農者の育成と栽培技術の継承を目的にオーガニックスクールを開校するに至っています。

調査事項

1. オーガニックビレッジ宣言のまちづくりについて

- ・「自然生態系農業の推進条例」制定後の取組と推進

- ・綾町が推奨する農業＝「自然生態系農業」

自然生態系農業とは、自然を壊さずに自然の力を生かした農業
化学肥料や農薬などの化学合成物質を使用せず動物性堆肥や
自然由来の肥料等を使用する農業のこと

- ・自然生態系農業の背景 2人の町長

郷田 實町長 「ほんもの」求める時代が来る。ほんもののまち
づくりを目指そう！

- ・一坪菜園運動 ・まちをあげて有機農業を推進

- ・生ごみや家畜排泄物を循環利用

- ・自然生態系農業の推進条例の制定

前田 稷町長 循環型で持続可能な世界のモデル地域を目指そう！

- ・有機農産物「綾ブランド」確立

- ・地産地消推進（学校給食など）

- ・2012年 ユネスコエコパークに登録

自然生態系農業の認証制度

〈取組の背景〉

- ・町民の健康維持・食生活の改善の一環として、昭和48年から一坪菜園運動による野菜作りを提唱することからスタート
- ・町民の自給自足運動を広げ、昭和51年には青空市場を開設それが平成元年には直売所「綾手づくりほんものセンター」に発展。

〈自然生態系農業の推進体制〉

- ・綾町自然生態系農業推進会議 推進に係る基本的事項等を決定する組織（構成）・町・農協・自然生態系農業実践振興会生産組織

- ・有機農業開発センター 具体的な普及推進機関

推進会議と生産者をつなぐ役割

- ・綾町自然生態系農業実践振興会 各自治公民館の生産者と地域リーダーである支部長からなる実践支部

〈自然生態系農業農産物の認証基準の仕組み〉

綾町で生産された農産物は、町独自の認証基準によって自然生態系農産物の認証を受けます。

①、過去の農地の管理状況により「農地認定」を受けます。

②、作物の栽培状況により「生産管理認定」を受けます。

③、最後に2つの認定を総合判定し、農産物にランク付けします。

農地の判定区分

A 農地 土壌消毒剤・除草剤 使用しない土づくり 3年以上

B 農地 土壌消毒剤・除草剤 使用しない土づくり 2年以上

C 農地 土壌消毒剤・除草剤 使用しない土づくり 1年以上

生産管理の認定区分

A 土壌消毒剤・除草剤・化学肥料・合成化学農薬使用しない

B 土壌消毒剤・除草剤使用しない 化学肥料三要素施用成分
総量 20%以下 合成化学農薬慣行防除の 1/5 以下

C 土壌消毒剤・除草剤使用しない 化学肥料三要素施用成分
総量 20%以下 合成化学農薬慣行防除の 1/3 以下

○金 有機農業により生産された農作物

化学合成農薬、化学合成肥料不使用、遺伝子 DNA 技術の不使用

○銀○銅 特別栽培農作物

化学合成農薬、化学合成肥料の使用料を慣行農業より半減以下
農産物のランク別認証状況

A 金 1,260 件 77.1%

B 銀 139 件 7.0%

C 銅 30 件 1.5%

〈有機農業開発センターの設置と取組について〉

1989（平成元）年自然生態系農業の普及・推進機関として
設置。

- ・自然生態系農産物認証業務・有機 JAS 認証・土壌診断
- ・生産指導 擬態的な普及推進機関。推進会議と生産者をつなぐ役割。

〈有機農業推進大会の開催と PR 活動について〉

毎年 11 月有機農業推進大会を開催しています。

令和 5 年 オーガニックビレッジ宣言

オーガニック給食試食会を実施

令和 6 年 伝統和食の講演とみそ汁のふるまい。

オーガニックスクール生による事例発表

2、「綾町オーガニック給食の推進条例」の制定

有機給食の取組（目的）・地産地消の積極的な推進。

・地元の小中学校の学校給食の食材として使われる農産物について、有機農産物等（ここでは自然生態系農業「金野菜」も含む）の使用率を上げるよう努める。

・令和 7 年 1 月より、有機栽培米の給食を開始。

・保育所や幼稚園、病院、介護施設でのしくみを今後促す。

児童・生徒・の有機給食への感想「食」に対する考え方意識の影響について

- ・子どもたちに地元の農産物を使った給食を提供しながら、自然を守る仕組みつくっています。
 - ・2024年12月から学校給食で有機米の提供が始まりました。町内5名の生産者の方々に協力いただき小中学校の給食で使用するお米を有機栽培で作って頂いています。
 - ・初めて有機米を給食に提供した際には、子どもたちからは「甘い！」という感想が聞かれ、大好評でした。
- 稲作体験教室「お米学習」が農協青年部の協力で毎年行われています。子どもたちが米作りの体験を通して食べ物大切さについて「お米学習」を行なっています。
- 綾どれ農畜産物を使った「食育」「地産地消」が幼稚園・保育園・小中学校の教育で行われています。
- 有機農業の普及啓発では、町内外の消費者が土から学ぶできる「体験農園」を設置しています。10坪（約33㎡）から始められ、自ら作業を行い、安心・安全な農産物を生産する体験ができます。

綾町オーガニック給食の推進に関する条例が令和5年3月制定

- ・食は、心身の健康及び人格の形成に大きく影響を及ぼし、健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となります。
- ・給食は、食育の観点から教育における重要な役割を担っています。
- ・子どもたちの健やかな成長、地産地消の推進及び自然生態系農業の理解の醸成を期するため、この条例が制定されました。

3. オーガニックスクール・有機農業を学べる学校

みどりの食料システム戦略の取組

- ・担い手の確保 直売所の出荷者の8割は65歳以上人口減少もあり、出荷者は確実に右肩下がり。
- ・有機農産物の需要に応える供給量の確保 有機農産物需要は高まる一方、供給が追い付いていない状況
- ・新規就農者の確実な育成 研修後の農業経営を安心して始めることができる人材育成。
- ・環境に配慮した農業の推進

綾オーガニックスクール 2023年6月開校しました。

有機農業の生産者育成や栽培技術の継承を目的に令和5年6月綾町オーガニックスクールを開校し、1期生1人が入学されました。令和6年4月には3人が入学され、現在4人の方が研修されています。

研修期間は2年間で、綾町の自然系体系農業の理念や取組み、農業経営、土づくり、野菜栽培、農業機械の操作などを実践的

	に学び、綾町での就農を目指します。 就農実践コース 綾町で有機農業の新規就農を希望する若者に対する体系的な研修 ・期間 2 年間・定員 3 名・入学金 55,000 円・授業料 660000 円 研修生支援策 ・就農準備資金（国）12.5 万円/月 ・新規就農者受入支援交流施設 ・若者移住定住促進補助事業 ・綾町農業機械利用組合などの支援があります 《所見》 綾町の「ほんもの」を求め、「ほんもの」をつくる町づくりのさまざまな施策が「選ばれる産地」として綾ブランドを高める綾ブランドの基本 ・「ほんもの」を作る農家のプロ意識 ・農産物を育てるプロセスを大事にする姿勢 ・生産者と消費者との信頼～絆～ 元町長の、郷田實氏の 「ほんもの」とは、自然にやさしく、環境にもやさしく、自分の良心に訴えても恥ずかしくないもの、人をだまさないもののことである」との言葉に感動しました。 本市も、「有機の郷“あいら”」を広く PR するため「オーガニックビレッジ宣言」をしました。有機農業の生産者・振興協議会消費者市民の皆さんと有機の郷を広報すること。 小中学校の給食に地元の有機農産物が提供できるように普及啓発に取り組む必要があると感じました。 新規就農者の支援ため、オーガニックスクールの普及啓発と有機農業の生産者育成に取り組む必要があると感じました。 有機の郷“あいら”オーガニックビレッジ宣言のまち始良市を市内外に広報宣伝していきます。
参加者名	新福愛子、竹下日出志

行 程 表

会派名又は議員名（ 公明党始良市議団 ）

月 日	時刻	出発地等	到着地	交通手段等
11/19 (水)	8:13	加治木駅	宮崎駅	J R 日豊線
	10:10	宮崎	綾町	バス
	13:00	綾町役場		
		綾町役場		
	15:30	綾町	宮交シティ	バス
	17:35	南宮崎駅	加治木駅	J R 日豊線

※ 行程表の起点と終点は、自宅の最寄り駅又は最寄りのバス停とする。

旅費計算書〔 ~~概算~~ ・ 実績 〕

会派名又は議員名 (公明党 始良市議団)

内訳	航空賃	円	
	鉄道賃	14,480 円	(片道) 3,620 円 × 2 × 2 人分
	バス賃等	円	
	車 賃	円	
	宿泊料	円	
	その他	15,000 円	視察料金 12,000 円 お土産代 3,000 円
合計額		29,480 円	

[illegible]

領収書貼付台紙

※重ならないように貼付すること。

※レシート（感熱紙）の場合はコピーも貼付すること。

領 収 書 No.076837

登録番号: T6290001012621

竹下日出志 様

ご利用金額 ￥7,240- (現金利用)
上記の金額を領収しました。税10%

購入商品 JR乗車券類
年月日 2025年11月18日

九州旅客鉄道株式会社
加治木駅POS001発行

領 収 書 No.076838

登録番号: T6290001012621

新橋愛子 様

ご利用金額 ￥7,240- (現金利用)
上記の金額を領収しました。税10%

購入商品 JR乗車券類
年月日 2025年11月18日

九州旅客鉄道株式会社
加治木駅POS001発行

2025年11月19日
一連No054168
領収No000001

領 収 書

公明党 始良市議団 様

¥3,000-

対象計※
内税※

8.0%

¥3,000-
¥222-

(但し 加治木饅頭代 として、正に領収致しました)
印刷面を内側に折って保管願います

加治木まんじゅう 堂免堂

鹿児島県始良市加治木町
木田242-1
Tel 0995-63-3317

領収書貼付台紙

※重ならないように貼付すること。

※レシート（感熱紙）の場合はコピーも貼付すること。

納入済通知書 兼 領収書

一般会計-31-07-05-04

令和 7年11月19日 発行

899-5432 (0)

鹿児島県始良市宮島町 2 5 番地

公明党始良市議団

竹下 日出志 様

年 度	所 属	調 定 番 号
7	議会事務局	005666-0001

会 計 一般会計
31 款 諸収入
07 項 雑入
05 目 雑入
04 節 雑入
318 細節 その他（議会）

摘 要
行政視察料金（11/19 公明党始良市議団）

金 額 12,000 円

納期限 令和 7年11月19日

上記のとおり納付してください

綾町長
松本 俊二



領収日付印

